

中学生の頃、実家の離れを工務店に依頼して建ててもらうことになり、設計から施工までを間近で見れたことが建築との出会いだった。東京理科大学・平野道勝研究室に進み、構造力学の授業で使用する模型実験の開発や最大荷重3,000tの大型アムスラーによる800×800角の角形鋼管の実大実験などを経験した。三重でアルミ鋳造会社を創業・経営する父の影響で、学生の頃から同じ自営への道を意識しはじめるようになった。

ゼネコン、構造事務所を経て独立

卒業後はフジタの構造設計部に入社し、4年半構造設計の基本を学んだ。その後、ミラノに渡り、友人が勤めるベリーニ事務所に入りし国際コンペの手伝いをするなど意匠と構造の融合の模索と並行し将来の方向性を探った日々だった。帰国後は平野研の先輩の誘いをきっかけに、構造計画研究所に入社し、超高層、大空間、海外プロジェクトの構造設計、新規事業開発としてのCM、PMの研究などに従事し、建築プロジェクトにおけるマネジメントの重要性を学んだ。海外の大型プロジェクトが峠を越えた36歳のとき、今が本懐を果たす最後の機会と思い、エム・イー・エムを設立した。

提案型の構造設計を

事務所は水野氏と二宮正行氏、夫人である平川葉子氏の3人が中心となっている。夫人は九大・松井研出身の構造設計者でなんでも相談できる戦友のような関係だという。派遣社員は現在2人勤務しているが、フレキシブルな勤務体系をとっており、働きやすさからか2人も子育て期間中の女性建築士。仕事は鉄骨造が多いという。「軸足は構造設計だが、プロジェクト全体が円滑にまわるために、今何をすべきか常に考えて動くようにしており、解決策を即座に提示できる提案型の構造設計を目指している。今後業界はBIM化の方向だが、一方で説明責任の重要性も高まっている。3DCADをはじめとするツールを活用することで、打ち合わせの場での見える化、モノ決めの精度を高めスピードアップさせることを深化させていきたい」と語った。

文：町田有紀江



人 Human

水野 隆介さん (エム・イー・エム代表取締役)

RYUSUKE MIZUNO

1967年12月12日生まれ 三重県出身 1993年3月東京理科大学大学院工学研究科建築学専攻修了 フジタ、構造計画研究所を経て、2004年エム・イー・エム設立 一級建築士 構造設計一級建築士 JSCA 建築構造士 著書に「CMガイドブック」(共著)